

特集

医学生が学ぶ 公害の歴史 —いつも頭の片隅に



- なにわの医療道場
- 高校生・受験生のみなさんへ
- 「未来の医師を応援」
- 合格HISTORY
- いがくせいだより
- けんしゅうエッセー

私たちは
おおさか民医連
Osaka Min-iren



大阪民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。2024年、連合会設立から71年を迎えました。現在、4つの病院、48の診療所、7つの歯科診療所、31の訪問看護ステーション、34の保険薬局、2つの老健施設、薬剤・診療材料センター、看護専門学校、検査センター、在宅看護支援センターそして社会医学研究所が、大阪民医連に加盟しています（2024年6月現在）。病院・診療所での実習を、随時受け入れています。

※医学生センターは、阿倍野医学生センター（大阪公立大学近辺）、枚方医学生センター（関西医科大学近辺）、狭山医学生センター（近畿大学医学部近辺）の3つです。

奨学金 制度

大阪民医連では、いつでも、どこでも、だれもが安心してよい医療を提供できる医療機関を目指しています。私たちの医療活動に共感し、ともに働く意思のある方を対象に奨学金を貸与しています。

●対象学年と奨学金（月額）

Aコース	1～2年生 50,000円	3～4年生 60,000円	5～6年生 70,000円
Bコース	全学年 100,000円		

他の奨学金と併用できます。詳しくはお問い合わせください

大阪民医連の病院紹介（詳細は各病院のHPをご覧ください）

臨床研修 指定病院



耳原総合病院（病床数 386床）

- 大阪府堺市堺区協和町4丁465 TEL.072-241-0501(代)
- 南海高野線堺東駅よりバス10分

臨床研修 指定病院



西淀病院（病床数 218床）

- 大阪市西淀川区野里3-5-22 TEL.06-6472-1141
- JR東西線御幣島駅徒歩5分



東大阪生協病院（病床数 99床）

- 東大阪市長瀬町1-7-7 TEL.06-6727-3131
- 近鉄大阪線長瀬駅徒歩3分



コープおおさか病院（病床数 166床）

- 大阪市鶴見区鶴見3丁目6-22 TEL.06-6914-1100
- 地下鉄長堀鶴見緑地線今福鶴見駅徒歩4分



facebook



X (旧Twitter)



医学生・研修医.com

はじめまして民医連です

私たちは民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現を目指す組織です。戦後、医療に恵まれない人々と医療従事者が手をたずさえて各地で民主診療所が作られました。そして、1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を立ち上げました。

それから70年、なによりも地域の人たちの思いを大切に、地域に求められる医療を行ってきました。

最も困難な人たちの立場に立って、寄り添う。

設立以来一貫して、無差別・平等の理念を掲げる私たちの病院は、差額ベッド代を(※1)頂いていません。また、無料低額診療にも(※2)取り組んでいます。これは、「お金のあななしで医療に差別があつてはならない」という私たちの考えによるものです。

※1…医療保険外の実費負担費用。病院によって金額は異なる ※2…低所得者などに無料または低額な料金で行う診療

民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめ、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。

私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を謳い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。

私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

- 一、人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります
- 一、地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
- 一、学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します
- 一、科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします
- 一、国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます
- 一、人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。

2010年2月27日
全日本民主医療機関連合会

医学生が学ぶ 公害の歴史

いつも頭の片隅に

少しでも公害に対して理解がある
医療者を増やしたい

みなさんは「公害」と言われて何を想像するでしょうか。四大公害病？ 足尾銅毒事件？ それとも全くイメージが湧かない？

多くの人にとって歴史の教科書で習うものというイメージが強く、具体的なイメージはつきにくいのではないのでしょうか。

2023年度、熊本県水俣市・大阪市西淀川区・栃木県足尾町の3か所で公害についてのフィールドワークを行いました。そこに参加した田原康太郎さん（長崎大学医学部4年）が、大阪民医連で公害患者の治療に長年尽力されてきた金谷邦夫医師（うえに生協診療所）にインタビューを行いました。

民医連の組織現勢

全日本民医連加盟事業所数	(2022.1現在)
病院	142
有床診療所	12
無床診療所	474
歯科診療所	78
訪問看護ステーション	234
保険薬局	349
薬剤・診療材料センター	33
看護・介護学校	8
検査センター	2
老人保健施設	51
介護医療院	1
在宅介護支援センター	24
特別養護老人ホーム	37
鍼灸所	3
研究所	2
ヘルパーステーション	51
グループホーム	21
在宅介護福祉関係	212
ケアハウス	11
その他	13
合計	1,758

主な医療団体との比較

職員数		1日平均の入院患者数	
民医連	83,618 (2021.10.1)	民医連	21,329 (2020年度)
日赤	67,556 (2021.3.31)	日赤	約23,000 (2020年度)
厚生連	55,849 (2021.3.31)	厚生連	約23,410 (2021.3.31)
済生会	64,000 (2020.3.31)	済生会	約16,930 (2020.3.31)
1日平均の外来患者数		病院数	
民医連	55,417 (2020年度)	民医連	142 (2021.3.31)
日赤	約60,000 (2020年度)	日赤	91 (2021.3.31)
厚生連	約61,000 (2021.3.31)	厚生連	105 (2021.3.31)
済生会	約35,900 (2020.3.31)	済生会	81 (2020.3.31)
訪問看護ステーション数		病床総数	
民医連	234 (2022.1.31)	民医連	24,902 (2020年度)
日赤	46 (2016.3.31)	日赤	35,219 (2021.3.31)
厚生連	97 (2021.3.31)	厚生連	32,920 (2020.3.31)
済生会	52 (2022.1.31)	済生会	22,244 (2020.3.31)
診療所数		(調査日)	
民医連	484 (2021.3.31)		
日赤	5 (健康管理センター2を含む) (2021.3.31)		
厚生連	60 (2020.3.31)		
済生会	18 (2022.1.31)		

〔金谷邦夫医師プロフィール〕
1969年 耳原総合病院に研修医として入職
1972年 医師支援として相川病院に異動
1974年 群馬大学第1内科で専門研修
1978年 西淀病院に帰任
1990年 うえに病院に異動
同病院院長や法人理事長などを歴任
2002年 うえに生協診療所所長に就任
2012年 退職・常勤嘱託として同診療所に勤務

田原康太郎さん
(那覇国際高校卒・
長崎大学医学部4年)

金谷邦夫医師
(うえに生協診療所)

インタビュー

西淀川の空 1960年代当時の西淀川区内の様子

学生時代、堺での疫学調査が 公害に関わるきっかけ

田原 昨年度、さまざまな場所でのフィールドワークを通して、公害は経済を最優先にすることで発生した人権問題であることを学びました。水俣では人体に健康被害を発生させるメチル水銀が海に流され、コミュニティも破壊されてきたことを学ぶことができました。西淀病院の近くにあるあおぞら財団では西淀川の大気汚染公害の歴史を学び、足尾銅山鉱毒事件では、鉱毒だけではなく中国や朝鮮の方に対する強制労働による人権侵害があったことを学びました（詳細：9P参照）。金谷先生が公害問題や患者さんの治療に関わるきっかけは何だったのでしょうか？

金谷 学生時代の影響が大きかったと思います。私が医学生だった1960年代は高度経済成長期で、排水・排煙による健康被害のひどさから全国各地で住民運動が自然発生的に起こり、四大公害裁判をはじめとして、公害が徐々に社会問

題化していきました。私は、サークル活動の一環で耳原総合病院、堺北診療所とともに、堺市北西部にある泉北コンビナートでの疫学調査に参加しました。気管支疾患の患者さんも多く、西風が吹くと街へばい煙が流れ込み、酸特有のすっぱい臭いがすごかったのを覚えています。

先程、経済優先と言ってくれましたが、私の中学時代は、工場に煙が出ていることが繁栄・復興の象徴として称賛されていました。一方で実際は、その影響で疾患を持つ方は多かったのでありますが、その声はかき消されていました。

田原 医学生時代から疫学調査に参加されていてすごいと感じたのですが、医師になってからも公害に関わり続けてきたのでしょうか？

金谷 ずっとではないですが、長らく関わってきました。医学部卒業後、初期

研修を耳原総合病院で行いましたが、その時も岬町火力発電所建設反対裁判や、地域での住民学習会などに指導医とともに参加しました。裁判は負けましたが、それまでの「呼吸器学Ⅱ肺結核学」ともいえる状況から、新しい呼吸器学を学ぶ必要があると感じ、群馬大学の医局で3年半、呼吸器内科の研修を行いました。大学での研修を終え、西淀病院へ着任した当時、公害裁判が始まっていました。呼吸器を学んでいたこともあり、患者さんから主治医意見書を書いてほしいとお願いされたのが、公害治療に関わるきっかけです。西淀川地域の特徴は、気管支炎関係の疾患が多く、咳・痰があり、他疾患がなければなんでも意見書を書き、医師団を作って頑張ってきました。西淀川大気汚染公害訴訟は、判決を待たずに和解勝利で解決し、そのお金であおぞら財団が設立されました。

「公害問題が 政治を変える」

田原 公害問題が解決に向けて動き出す契機は何があったのでしょうか？

金谷 1970年代に公害運動の中から、大

阪や東京で住民のくらしを第一に考える知事が誕生し、公害対策が進んだことが大きかったと思います。政府も動かし、公害健康被害補償法という法律ができ、やっと被害が補償されるようになりました。水俣病は、典型的な症状でなければなかなか水俣病患者だと認定されませんでした。大気汚染関係はかなり基準が甘く、地域指定のみで12万人ほどが認定されました。そこから財界が巻き返し、環境省ができたものの、公害は終わったとして新規の認定患者を増やさないようにし、公害は過去のものにされてしまいました。

その後、泉南アスベスト訴訟[※]でも意見書作成に関わり、こちらは全面勝訴を勝ち取ることでできました。1971年に「大阪から公害をなくす会」が設立され、今では約50年が経ち50団体で構成される組織となりました。2011年3月の東京電力福島第一原発事故が起きた、同年6月、私

※ 大阪府の泉南市と阪南市および岸和田市の一部のアスベスト（石綿）紡織工場で働いた元従業員やその家族、また工場周辺に住んでいた住民が、じん肺や中皮腫などのアスベスト疾患を発症した責任が国にあるとして、損害賠償を求めて提訴した国家賠償請求訴訟。最高裁判所は2014年、日本国内で初めてアスベスト被害に対する国の責任を認める判決を下しました。



泉南アスベスト訴訟



西淀川区の住宅街から工場の煙突を望む

経済性が優先され 汚染が広がるPFAS

田原 大阪から公害をなくす会は、現在ほどのような問題を取り扱っているのですか？

金谷 最近では、産業廃棄物処分場問題や、PFAS（有機フッ素化合物）の健康被害問題に取り組んでいます。特にダイキン工業がある摂津市で、工場の1km圏内が特にPFASで汚染されていることが分かりました。PFASは、たばこなどと同じ発がん性物質であることは認定されましたが、どれぐらい体内に蓄積されたら発がんするかなど、閾値はわかっていません。アスベストもPFASもそうですが、経済的に有用なものとして扱われており、代用品がないため本格的に使用禁止とするには時間がかかっています。ただ、世界的には健康被害を示す研究レポートが増え、規制すべきだと思えます。

田原 PFASという言葉は聞きなれないのですが、日常生活だとどんなものに使われてきたのですか？

金谷 撥水加工の製品に使われており、フライ

パンや食べ物の包み紙、体に塗るものとしてファンデーションやリップクリームなどにも使われてきました。

田原 化粧品にまで使われていたのは驚きですね。

金谷 そうですね。身近な物にも多く使われており、大阪で検査した1192人の方の中で、全ての数値がゼロの方はいませんでした。今は汚染状況の把握が主となっていますが、今後、アスベストのように長い時間が経った後に健康問題が出てくるかもしれない、長い運動になるかと思えます。他にもウクライナではアスベストが問題になっています。防寒のため建材にアスベストが使われており、その建物がロケット弾などで破壊されてしまうことでアスベストが飛散し、今後とんでもないアスベスト被害が出てくるかもしれません。

田原 私もSDH*（健康の社会的決定要因）を学んでいます。戦争は最大の健康阻害要因だということがよくわかる事例ですね。医療者が平和問題にも取り組まないといけないと改めて感じました。

公害の被害を認めさせ 救済措置を講じることが 仕事

田原 先生が公害に関わってきて大変だったことはありますか？

金谷 40年ほど前、頻繁にぜんそくの発作で西淀病院に運び込まれていた10代後半の方が発作で亡くなりました。苦しみあまり、歯で舌に穴が空くほど強く噛んでおり、どれだけ苦しかったのかと感じました。他にもぜんそく発作がひどいために仕事ができず、公害の補償だけで暮らしているという40代の患者もいらっしゃいました。その方も亡くなってしまいました。日常生活も悲惨な状態でした。そんな患者の様子を見るのが治療の上で一番嫌で、辛かったです。

今の医師はミクロの世界のものとだけを見てマクロの悲惨さを知らないように感じます。でも、そんな患者さんと出会う経験のおかげでひどい苦しみ話を聞いただけで分かるようになり、さまざまな公害問題に対し迅速に動けるようになり、そこまで頑張ってきたと思います。

公害問題に関心をもち いつも頭の片隅に

今は診療所で勤務しており、専門的な治療はできませんが、早く疾患を見つけ、適切な治療につなげる。政府に対し被害を認めさせ救済措置を講じさせることが自分の仕事かなと思っています。

田原 公害問題はいまだに続いていることが実感できました。最後に、医師を目指している医学生や高校生に対して、メッセージをお願いします。

金谷 公害問題に対し、関心を持ち、学んでみてほしいと思います。研修医の時は忙しいので、つついっ公害問題といった社会問題に目を向ける余裕がないことはあるでしょうが、頭の片隅にでも置いておいてほしいです。常にアンテナを張り、患者さんの背景に何かあるのではと問題意識を持ち、なぜこの病気になったのか、しっかりと考えてほしいと思います。5年10年経った際に、片手間でも関わってくれる人がいたらうれしいです。

田原 私も引き続き学び関心を持ち続けたいと思います。本日はありがとうございました。



「大阪から公害をなくす会」
ホームページ
<http://oskougai.com/>

※ Social Determinants of Healthの頭文字を取った単語で、病気の背景には生物学的な要因だけではなく、社会的要因が存在するということを示す言葉。医学教育などにも取り入れられるようになっていきます。



医学生の感想文

**経済発展自体が目的となり
人権がないがしろに**
(長崎大学4年 田原康太郎)

公害の本質はなんであるか、と考えながらFWを行いました。今回のFWを通して「無関心な経済発展」が公害の本質かと考えました。人々の生活を豊かにするための経済発展が、いつのまにかそれ自体が目的になり、盲目的にそれを良しとした結果多くの方の人権が守られなかったと思います。また高度経済成長期の日本でも公害問題が起きており、負の歴史を繰り返しています。歴史を学ぶ意義の一つに過去の過ちを繰り返さないことが挙げられます。改めて公害の事実に向き合い関心を持ち、議論したことを発信することで、健全な経済発展ができると考えました。

**『人権ある世界』から
かけ離れた世界**
(弘前大学4年 村上桃子)

足尾銅山と聞いて、栃木の鉱山による公害＝田中正造という知識でしたが、文明の開花、企業と政治家との関係、背後には戦争といった要素が混ざり合って作られた歴史であると知りました。単に毒そのものの科学的な影響のみならず、強制労働の犠牲者や、鉱山発展に伴い住んでいた村を手放して移住をせざる得なかった人々の無念、健康被害がありながらもそれを訴える術がなく途方にくれていた民衆、といった『人権のある世界』からかけ離れた世界だと感じました。

その背景には戦時下の富国強兵、殖産興業というテーマがありました。足尾の歴史は戦後の今も完全に消えてなくなったわけではなく、未だに鉱毒水の処理施設が稼働しています。また、鉱業によって生じた亜硫酸ガスが作ったハゲ山、不純銅を精製する過程で生じるカラミの堆積場所は今もなお町に残っています。廃村に追い込まれた村を、もとの姿に戻したいと植樹の活動に励まれる方もいらっしゃいます。山にとって木々は、根を張り、土を抱え込み、土砂が崩れるのを防ぐためにも重要です。悲しい歴史がありながらも、銅山とともに生きている人々の土地への愛着と、そうした悲劇を生み出した戦争の理不尽な脅威を感じました。

**1 中国人殉難烈士慰霊塔・
朝鮮人強制連行犠牲者慰霊碑**

第2次大戦による労働者不足で落ちた産銅量を増やすため、中国人、韓国人が強制連行、強制労働をさせられ、栄養失調などで多くの方が犠牲となった歴史を学ぶことができました。



中国人殉難烈士慰霊塔

**2 松木堆積場・
森びとプロジェクト**

精錬場からの煙害や投棄された膨大な量のカラミという銅精錬の際に出る残渣の影響で、草木が育たなげ山となってしまった松木堆積場で、植林活動を行っている森びとプロジェクトの方からお話を伺いました。植樹活動を通じて自然が戻り、動物も戻ってきたことを学び、持続可能な社会の在り方について考えました。



森びとプロジェクト

公害問題の原点学ぼう
足尾銅山鉱毒事件から

大阪民医連医学生奨学生は3月9日、11日に栃木・足尾地域でのフィールドワークを実施しました。医学生6人が、年間テーマである「人権」と引き付け、足尾地域や田中正造記念館などで足尾銅山鉱毒事件や、その後の銅山の操業により、どのような人権侵害が発生していたのかを学び、医療者として何ができるのかを考えました。2日目に行った足尾地域のフィールドワークを紹介します。



3 足尾銅山観光

足尾銅山閉山後に一部開放された薄暗い坑道に入っていくと、当時の厳しい鉱石採掘の様子が江戸時代から年代ごとにリアルな人形で再現されており、鉱山労働者の過酷な労働実態を知ることができました。



FIELDWORK



大谷 紗代

Ootani Sayo
(清教学園高校卒)

(西淀病院 地域総合内科)

PROFILE: 香川大学医学部卒業。2012年に大阪民医連に就職。初期研修を修了したのち、大阪家庭医療・総合診療センター(OCGFP)の家庭医プログラムに進み、家庭医療専門医を取得。現在は西淀病院内の急性期病棟で初期研修医の指導医として働いている。



多くの患者さんやご家族との出会い、たくさんのスタッフに支えていただきながら家庭医療の専門研修を終え、専門医を取得したのち、急性期病棟や複数の診

● 子育てと仕事の両立

「病気だけでなく、頃の生活や身の回りの人の困りことも相談してもらいたい」「臓器というより、人々を全体を担当したい」と思うようになっていました。そんなときにピンときたのは、西淀病院でお世話になった先生が多く在籍していた『家庭医療・総合診療』でした。そして西淀病院が基幹病院である『大阪家庭医療・総合診療センター』の家庭医プログラムに進みました。



療所で家庭医として働いてきました。プライベートでは専門医取得の頃に結婚し、三年後に第一

子を出産しました。約一年の産休・育児を経て、現在は保育園に預けて時短勤務をしながら、仕事を続けています。子どもが急に熱を出すこともしばしばで、早めに保育園へお迎えに行けるか、翌日だけが休んで子どもの看病をするのかなど、イレギュラーな対応も求められます。その都度、一緒にサポートをしてくれる家族、勤務変更など配慮くださる職場の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。子どもが大きくなったら、『いろんな人の支えで成長したんだよ』と伝えようと思います。持ちつ持たれつの関係ですので、自分もできる限りの働きはして、他のスタッフが困っているときはサポートするよう意識しています。医師という多忙な職業でプライベートとの両立は可能か心配な方もいるかと思いますが、支えてくれる仲間がきっといるはずですよ。

『百聞は一見に如かず』この記事を読んで少しでも興味が出てきた方はぜひ実際の現場を覗きにきてください！お待ちしております。

なにわの医療道場「こんなコト聞きたい」大募集!

なにわの医療道場では、テーマを変えて医師を目指す方たちへメッセージを掲載しています。技術的なことだけでなく、「医師にとっての志」「社会の中での医師の役割」など、テーマは多数。取り上げてほしいテーマなどございましたら大阪民医連までご連絡ください。

大阪民主医療機関連合会 (大阪民医連)
〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 創建本町ビル2階
TEL: 06-6268-3970 FAX: 06-6268-3977
E-mail: igakusei@oskmin.com



● 理想の医師像とは

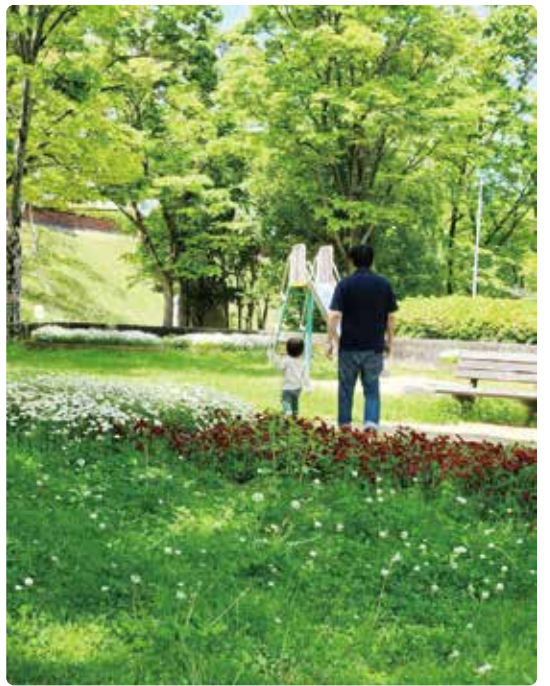
『どんな医師になりたいか』これは人によってさまざまです。ここで大事にしてほしいことは『なぜそうなりたいたのか』も一緒に考えることです。そうすることによって自分の目指す道が見えやすくなると思います。私の理想の医師像は『笑顔になる手助けのできる医師』です。こ

● 医学部を目指したきっかけ

小さなころから母に『将来困らなくていいように手に職をつけた方が良い』と言われていました。母が看護師、叔父が薬剤師で身近に医療従事者がいる環境でもあったので、困っている人や健康を支える医療の魅力に触れていたことで『手に職をつけるなら医療従事者』と考えるようになりまし。応急処置など有事の際に咄嗟に動けるようになりたいと思いつ、人の話を聞く・話すことも好きだったので、一人ひとりの患者さんと接する時間が長い仕事がしたいと思い、高校1年生の頃に医師を目指しはじめまし

● 民医連との出会い

これは医師を目指し始めたころから働いて10年以上経つ今でも変わらない医師像です。病気の有無にかかわらず、世界中の人に少しでも平和でHAPPYな時間を過ごしてほしいと考えています。



● 家庭医への道のり

生をついで」で全国の仲間と大学ではべない社会情勢や臨床現場の課題について時間を忘れてさまざまな意見を交わし、将来について語り合った時間は私の医師としての礎であり、財産となっています。そうして濃密な大学生活を過ごしたのち、大阪民医連に就職し、西淀病院や耳原総合病院などで初期研修を行いました。入職当時は進みたい科が決まっていませんでしたが、さまざまな科で研修していくと「子どもも大人も年齢に関係なく幅

滋賀医科大学 4年 田中優芳
(関西大倉高校卒)

YUKARI
TANAKA

昨年度、私は大学の学園祭「若鮎祭」の実行委員長を務め、学祭の開催に向けて精力的に活動しました。実行委員長を引き受けようと思ったきっかけは、2年生の終わりに全日本民医連が主催した「民医連の医療と研修を考える医学生をつどい」に参加したことでした。自分も何か活動してみようと思い、実行委員長に立候補することを決めました。

最初は副実行委員長やその他の幹部の指名から仕事が始まり、半年間にわたる準備期間を過ごしました。この期間中、コロナや学生の逮捕などの問題が発生し、通常の学園祭が長らく行われていない状況で引き継ぎも不透明なままスタートしました。手探り状態の中で、学生課の職員や先生方、そしてさまざまな方々からの協力を得ながら、目の前の課題に取り組み日々を送りました。時間が経つのはあっという間で、いつしか本番が迫ってきました。

私が実行委員長として一つ大事にしていたことがあります。これは自

「ありがとう」があふれる学祭に

分が委員長として意識していたのはもちろん、幹部を選ぶ際にもとても大切にしていました。それは「ありがとう」が溢れる学祭にしたいということでした。先が見えない準備の中で一人ひとりが自分の仕事を探しながら準備を進めていきましたが、委員長として、その一つ一つに「ありがとう」と伝えることをとても意識していました。その意識は周りに広がり、お互いに感謝を伝え、そしてお互いに尊敬し合える実行委員会を作ることができたと思います。

それを一番実感できたのは、学祭のフィナーレでの出来事でした。これまでの飲酒をしながらのフィナーレが通常でしたが、飲酒禁止となり新たなフィナーレを、私を含め副実行委員長と3人で担当することになりました。今振り返ると一番しんどい仕事だったと感じます。そのフィナーレが終わり、

学祭が完全に終了した時、観客席から一緒に頑張ってくれた幹部のみんながたくさん「ありがとう!!」と叫んでくれていました。その言葉を聞いた時、実行委員長をして良かった、この仲間と開催ができて本当に良かったと感じることができました。

これから滋賀医大の学園祭は次代以降にまた引き継がれていきます。これまでの先輩方の努力、そして私たちのこの一歩がこれからの学園祭につながって欲しいと強く願っています。



▲学祭終了後、副実行委員の2人とともに中央が私です

医者になった自分を想像して勉強に励み
最後まで諦めないことが大事

夢をあきらめないあなたへ 先輩からの応援メッセージ!!

ここでは、高校生の間にした取り組みや大切にしていたことについてお話ししたいと思います。

私が中学・高校生だったときに一番大切にしていた事は、授業をしっかりと聞き、小テストや定期テストで点数を取ることです。授業は一字一句聞き逃さず、その日のうちに全て理解するくらいの気持ちで受けるようにし、日頃から問題演習や定期テスト対策をするようにしていました。また、受験勉強においては基礎の内容の問題集を何度も演習し、徹底的に基礎を固めるようにしていました。基礎が固まっていなければ、定期テストや模試、そしてもちろん受験本番でも良い成績を修めることができないので、基礎内容の演習を特に重視していました。

また、部活動や課外活動にもしっかりと取り組むようにしていました。特に課外活動の中では、民医連からフードバンクのボランティアを紹介してもらったりしていました。部活動やボランティアを経験することは、後々の自分にとって大きな財産になるので、ぜひ皆さんもさまざまなことに挑戦してみてください。

これから勉強していく中で、成績が伸び悩む時期もあると思いますが、そんな時は医者になった自分を想像して勉強に励み、最後まで諦めないことが大事だと思います。自分を信じて諦めなければ、受験本番にはしっかりと自分の実力を発揮することができます。頑張ってください。応援しています。



産業医科大学2年
いのうえあゆ
井上愛結 (大谷高校卒)

医学部をめざす
高校生・受験生へ

「一日医師体験」のご案内

3・8・12月頃



日本各地にある民医連加盟の病院や診療所で医師体験を実施しています。お近くの事業所をご紹介しますのでお気軽にご相談ください。医師体験では医師との懇談や診察見学、病院・診療所の検査機器などの見学やオペ室見学、時にはカンファレンスに参加したり、訪問診療で患者さんのお家に伺ったり、あまり見る事のない医師の働き方を知ることができます。また、介護施設などの福祉施設見学もできますので、事前に興味のあることを教えてください。

申し込み
方法

医師体験



イベント



または

医学生・研修医ドットコム

検索

<http://www.oskmin-igakusei.com/>

国試対策にも役立つ
なるほど道場

国試対策にも役立つ問題を3問出題します。正解者の中から抽選で10名様に「Quoカード1000円分」をプレゼントします。当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。クイズの正解は次号で発表します。

締め切り 2024年11月30日(土)

今回の出題

- Q1** 日本で起きた広範な健康被害と生活への影響が指摘されたもので、「4大公害」とされるものはどれか。一つ選べ。
- a 水俣病 b 足尾銅山鉱毒事件 c アスベスト訴訟 d PFAS・PFOA
- Q2** WHO（世界保健機関）憲章では「世界中の全ての人々が健康であること」が何についての基礎だと宣言しているか。一つ選べ。
- a 基本的人権 b 感染症対策 c 平和と安全 d 自国民の健康
- Q3** アフガニスタンで医療活動を行なった医師・中村哲氏が現地で行ったものは何か。一つ選べ。
- a 医療過疎地域への往診 b ハンセン病患者の治療
c 用水路の建設 d 3つのうち全て

出題して下さる先生

おがた じゅん
緒方 隼

(三国丘高校卒)
PROFILE ● 2023年関西医科大学卒業。耳原総合病院にて初期研修中。



応募方法

応募締め切り：2024年11月30日(土) E-mail送り先：igakusei@oskmin.com 「なるほど道場」プレゼント係
応募方法：①～③までの答えを明記し「お名前」「ご住所」「電話番号」「大学名・学年」「取り上げてほしい記事」を記入し、左のE-mailアドレスまで送信するか同封のはがきにご記入のうえ下記住所までお送りください。ご不明な点は下記までお問い合わせください。

● 大阪民主医療機関連合会（大阪民医連）
〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 創建本町ビル2階 TEL：06-6268-3970 FAX：06-6268-3977

No.81の答え Q1. c Q2. c Q3. b

皆さんに当会の取り組みを知ってもらうために担当スタッフが様々な記事を絶賛配信中です。イベントや病院見学など、みなさんにも有益なお知らせを散りばめています。気に入った記事があったら、ぜひみなさんの「ええやん!」をお願いします。



@osaka.miniren.igakusei



@oskmin_igakusei



http://www.oskmin-igakusei.com/

けんしゅうエッセー

研修医の思いを聞いてください

耳原総合病院 田畑治希

(茨木高校卒)

HARUKI
TABATA

患者さん一人ひとりに寄り添う医師に

桜もまだ咲きそうにない寒空の4月、私は研修医2年目を迎えました。新緑の芽吹きを感ずる中、私はこれまでの歩みとこれからについて思いを馳せる機会を得ました。医学生や夢を追う高校生に向けて、心の内を綴りたいと思います。

小さな頃、頻りに小児科を受診する中で、医師への憧れが芽生え、その境なき医師団への活動に触れ、その熱意に心から魅了され、医師の道を歩むことを決意しました。中学校を卒業し、高校、そして医学部と、勉強に励みながらも、部活動や友人との時間を大切にしながら学生生活を送りました。そして、国家試験に合格し、ついに医師の世界へと足を踏み入れました。

の複雑さ、「本物の」患者さんやその家族への深い思いやりを必要とする日々。これら全てが、私にとって新たな挑戦であり、学びの機会でした。医療はチームで行うものであり、看護師さんや他のスタッフとの連携が不可欠であることを改めて深く実感しました。患者さん一人ひとりに寄り添い、彼らの真の気持ちに耳を傾けることの大切さを、日々の業務を通じて学ぶことができました。

この1年間で、医学生としての自分と医師としての自分との間に存在するギャップを乗り越え、成長を遂げることができました。これからの1年間は、更に多くの挑戦と成長が待っていることと思います。私は小児科医を目指していますが、成人の患者さんを多く診ることができると、そして一日一日と一つひとつの

症例を大切にしながら、一步一步成長していきたいと思っています。

よい医師となるまでの道は決して容易ではありませんが、この人生を通じて、人々の健康と幸せに貢献できることを心から願っています。そして、このエッセーが、医学生や医師を目指す方々にとって、少しでも勇気やヒントを与えられれば幸いです。



田畑治希 PROFILE

● 2023年大阪公立大学卒業後、耳原総合病院にて初期研修中